

1. 概要

酸性雨は欧米等において、湖沼や森林等の生態系に深刻な影響を与え、地球規模の環境問題の一つとして国際的にも関心を集めている。我が国においても、酸性雨の実態解明と被害の未然防止を目的として、昭和 58 (1983) 年から酸性雨対策調査が開始された。

また、東アジア地域においては、急速な経済成長に伴う硫黄酸化物等の排出量の急増により、将来的に酸性雨による影響が懸念されていることから、東アジア地域における協同の取り組み(モニタリングの統一化)が急務となっている。この取り組みの第一歩として、平成 5 (1993) 年度から「東アジア酸性雨モニタリングネットワーク (EANET) 構想」を提唱し、平成 10 (1998) 年より東アジア 10 カ国とともに EANET 試行稼働を開始し、平成 13 (2001) 年 1 月より本格稼働を開始したところである。

この「陸水モニタリング手引書」は、第 2 回東アジア酸性雨モニタリングネットワークに関する専門家会合(平成 7(1995)年 2 月開催)において採択された「東アジア酸性雨モニタリングネットワークモニタリングガイドライン」及び「同技術マニュアル」等を基に、専門家や地方自治体の調査担当者の意見等を踏まえて作成したものである。

本手引書は、各地方自治体をはじめ、陸水モニタリングを実施される機関において、広く適用されることを期待するものである。なお、その後の科学的知見の蓄積や社会的状況の変化を踏まえ、適宜見直すこととする。